

第172話 元町域の私塾・寺子屋 中山町歴史散策

正法寺の寺子屋

教育が普及しなかった時代は、読み書き算盤ができる者は人の頭になれる傾向がありました。町内のところどころに残っている酬恩碑文や『山形県教育史』（上倉祐二編）などによって幕末から明治初期にかけて寺子屋、私塾があったことを知ることができます。

町にあった私塾の特徴として挙げられるのは、第一に他地域に比べ医学、絵画関係の塾が多かったことです。これはその道の優れた指導者がたくさんいて、後世の人材育成に力を尽くした結果と思われる。同様のことが和算などについてもいえます。

第二に、地主階級によって設けられた塾が多いことです。しかし、塾などに通うことができるのは少数の子弟に限られており、多くの子どもたちは多少読み書きができる者によって教えられていたのは他

町村と変わりませんでした。

正法寺の寺子屋は、元町の正法寺内に設けられました。寺は本堂・庫裡とも平成7年12月の火災により焼失しており、今は復興の途上にあります。真言宗の寺院で、建立は元中5年（1388年）、岡村から当地に移ったといわれており、中山氏の初代継信の誘致によるものと伝えられています。元禄時代にも災難に

遭い元禄10年（1697年）一八世宥恵法印により御堂再建、明和4年（1767年）二三世弁詮法印が本堂再建。その時の第一の功労者は上町の六代目村山喜左衛門で、その子である七代目は自修と号し、弁詮法印を師とし、のちに師を見習い私塾を開きました。

【用語説明】

庫裡・僧侶の居住する場所、

また台所

※引用 中山町史 中巻

第10章第2節 教育

私たち地域おこし協力隊です！ No.40

協力隊の稲垣です。

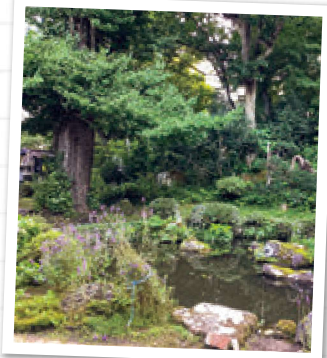
皆さん芋煮は食べましたか？中山町で芋煮とくれば鍋掛松ですが、実は私の地元の三重県津市をはじめ、各地には鍋ならぬ銭掛け松というお話があります。

その一つに、伊勢参りに向かう道中、茶店の主人に騙された旅人がそこで旅を諦めることにして、そばの松の木に銭を掛けてお参りをしたことにして引き返しました。茶店の主人がその銭を盗もうとすると銭が白蛇に変わり結局盗めず、やがて茶店も潰れてしまいました。

一方、再び伊勢参りに来た旅人が松に自分が掛けた銭を取り戻して無事に伊勢参りを終えたことから、この松に銭を掛けて道中の安全を祈願する風習があったそうです。松にはほかにも羽衣など様々な物を掛けた話がありますが、鍋掛松は最上川舟運、銭掛松は参宮街道とどちらも交通の盛んな場所という共通点があるのは面白いですね。

柏倉家にも多くの樹木がありますが、仏蔵の裏手にイチョウがあります。イチョウの木は保水性が高く、類焼防止のため寺社などで盛んに植えられました。ただ寺社にふさわしい植物を屋敷に植えてはならないとする考え方もあり、なぜ柏倉家に植えられているのか今のところ理由はわかりません。

ちなみに中山町には楯の大イチョウの葉が全部落ちると雪が降るといふ俗信があるそうですね。



九左衛門の上座敷からご覧いただけます

●協力隊への問い合わせ先● 伊藤 ☎662-2114（産業振興課）／ 稲垣 ☎662-2235（教育課）